

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究B	
校園コード（代表者校園の市費コード）	
521031	
選定番号	205

代表者 校園名： 大阪市立中野小学校
 校園長名： 牧野 美奈子
 電 話： 06-6352-3258
 事務職員名： 間地 豊
 申請者 校園名： 大阪市立中野小学校
 職名・名前： 校長 牧野 美奈子
 電 話： 06-6352-3258

令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 2 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	継続研究（2年目）
2	研究テーマ		「夢に向かって自主的・実践的に取り組む子どもたちを育む学級活動の探 究」		
3	研究目的		○望ましい集団活動を基盤として、なすことによって学ぶ「学級活動」を推進する。特に、新教育課程を見据えた実践研究を進める。 ○望ましい人間関係の形成、諸問題を自分達の力で解決していくこうとする主体的・実践的な態度や力の育成を通して、学級経営や集団づくりに寄与する。 ○全教育活動と学級活動との関連を重視した実践等を目指すと共に、その過程で学級活動の指導方法の可視化に努める。		
4	取り組んだ 研究内容		いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 10pt イント) 4月 役員・幹事会、拡大運営委員会（中野小） (今年度の組織づくり、研究テーマについて話し合った。) 6月 研究全体会（研究計画立案）、低・中・高学年部会（各部の計画・役割分担等） (各部の授業者を決め、部会の実施予定を立てた。) 7月 中学年部会（指導案検討会） 8月 拡大運営委員会（授業研究会での役割の確認・総合研究発表について） 第64回全国特別活動研究大会参加(8月18日19日 東京) 中止 低・高学年部会（指導案検討） 9月 低・中・高学年部会（指導案検討） 10月 全体授業研究会①(10月9日(金)14時35分～17時 中田友美教諭 榎本小約20名参 加) 拡大運営委員会（研修会内容検討） 全体授業研究会②(10月26日(月)13時50分～17時 多田舞香教諭 中野小約20名参 加) 11月 全体授業研究会③(11月19日(木)14時40分～17時 松本直也教諭 堀江小約30名参 加) 役員幹事会 中学年部会（紀要検討） 第36回近畿特別活動研究協議会参加(11月20日9時～17時 神戸市) 中止 低・高学年部会（紀要検討） 12月 拡大運営委員会（紀要原稿検討等 25日 中野小） 1月 拡大運営委員会（紀要原稿検討 7日 中野小） 2月 総合研究発表会実施（2月5日）誌上発表 3月 拡大運営委員会（来年度の研究・体制について）		

	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果1】 低・中・高学年の段階に応じた活動（ふさわしい議題、話合いのポイント）を工夫し、児童の課題解決力の向上を図る。</p> <p>《検証方法》 児童による「活動の振り返り」で集団や自己の決定に関して肯定的に捉える割合（話し合って良かった等の内容）を70%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 今年度は、学級活動（3）に特化して研究を行い、アイウそれぞれ低・中・高学年の発達段階に合わせて題材を選定し、授業研究を行った。低学年では98%、中学年では90%、高学年では85%以上の児童がふり返りの中で肯定的に捉えていることが分かった。また、学年末までも他教科に発展したり、継続したりして自分が意思決定した内容を行うことができた。</p> <p>【見込まれる成果2】 話合い活動の各過程における「適切な支援・援助のあり方」を工夫・改善することにより、子ども達が議題を「自分事」としてとらえることができる。</p> <p>《検証方法》 1単位時間毎の子どもの自己評価、相互評価を実施して肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。（例：すすんで意見を発表できたか、友達の意見を聞いて考えることが可能）</p> <p>〔検証結果と考察〕 学級会ノートのふり返りでは、進んで発表できたかは、70%を下回る学年もあったが、友だちの意見を聞いて考えることができたかは、85%以上の子どもができたと答えている。小グループでの話し合いやハンドサインの活用を取り入れているため話し合いへの参加意欲は高まっている。</p> <p>5 成果・課題</p> <p>【見込まれる成果3】 事前・事後の指導も包括的に継続して指導する等、「学級活動を中心とした総合的な指導のあり方」を工夫することで、よりよい学級経営が促進される。</p> <p>《検証方法》 学級の雰囲気に関する質問紙調査等の肯定的回答を70%以上にする。（例：自分の学級でよかった、仲間と協力して話し合うことは大切だ、係の活動に進んで取り組んだ、話合いが可能）</p> <p>〔検証結果と考察〕 学級活動を重ねることで、確実に学級の雰囲気はよくなり、他の教科学習の場においても意見交流を上手く進めることができている。何よりも相手のことを考えて話す児童が増え、自分たちでよりよい学級にしていこうとする態度が身についている。学級目標のふり返りでも80%以上の児童が達成に向けて頑張っていると答えている。</p> <p>【見込まれる成果4】 他の研究団体と情報交流を行い、本研究部の活動に取り入れることで研究活動を深める。</p> <p>《検証方法》 【検証方法】特別活動に関する研究者や諸団体と年6回の交流によって視野を広める。</p> <p>〔検証結果と考察〕 今年度は、3回の授業研究会に大和大学の准教授の濱川昌人先生に講師として来ていただき、新学習指導要領の新しい学級活動（3）について、授業についてご指導いただくことができた。また、全特活や金特活は中止になり参会することが叶わなかったが、府特活では大阪府の小・中学校の特別活動について情報交流し、今後の研究の進め方についても3回意見交換することができた。</p>
--	--

5	成果・課題	<p>【見込まれる成果5】</p> <p>(5) 学校における全ての教育活動における様々な指導が学級活動の実践には有効である。</p> <p>《検証方法》</p> <p>学級活動の指導における「可視化」の促進につなげるため、指導案に「全教育活動との関連」として明記する。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>学級活動の内容(3)の指導アイウの三つを低・中・高学年それぞれで授業研究を行い、普段の当番活動や総合学習などにつなげ、将来に夢をもって生きる力を育むのに役立った。また、自分のめあてを短冊などで毎日見ることができるようにしたことで日々の励みになり継続して活動できた。</p>												
		<p>【見込まれる成果6】</p> <p>自分や学級の将来に夢をもち、意欲的・主体的に取り組むための支援・援助のあり方を工夫することで、自分の将来に前向きにとらえる児童を育てることができる。</p> <p>《検証方法》</p> <p>キャリアパスポート等で児童一人一人が自分の将来について前向きにとらえられているか確認し、悩みが分かればアドバイスがすぐにできる。</p> <p>〔検証結果と考察〕</p> <p>キャリアパスポートだけでなく、日々のふり返りノートなど自分を見つめる時間をとることで児童が自分のことをしっかり考えて行動することができた。また、中学年では夢に向かって自主学習と題して実践を重ねて来たことで学習意欲が向上した児童が増えた。また、高学年では理想の大人になるためにと題して実践を行ったことで日々の自分の行動に変化が見られ最高学年として憧れられる6年生としての行動をしようとする児童が見られるようになった。</p>												
		<p>【研究全体を通した成果と課題】 具体的に記載してください。</p> <p>コロナ渦の中研究委員が集まって会議を持つことも難しい中、また、会場校を提供してくださった校長先生方のおかげで3本の授業研究を行うことができた。学年に合った題材で授業することができたので、児童は自分のことをしっかり見つめて実践することができた。</p> <p>また、学級活動(3)を実践するにあたってアンケート結果の分かりやすいまとめ方を研究したり、身近な人からのアドバイスを受けることでより自分事として捉えることができたり、など板書を含めアンケート内容などいろいろと全市に広める機会であったが学級活動(3)のよさを参会して発表できなかったことが残念であった。評価についても整理はしたが、実際の授業の中で活用するところまでいかなかったので来年は評価も含めて授業研究を深めていきたい。</p>												
		<p>《代表校園長の総評》</p> <p>それぞれの学校で今年度は、学習保障の観点から研究部の活動をしにくい環境であったにもかかわらず、積極的に授業研究を各部で進めることができ、研究紀要にまとめられ誌上発表できることになりよかったです。話し合い活動がコロナ渦で進めるのは難しいと言われていても話し合うことで児童の仲は深まり、学級活動がやはり学級の基盤になる活動であることを改めて知ることができた。今後も全教育活動の基本となる学級活動の大切さを全市に広められるように研究を深めていきたい。</p>												
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	<p>研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。</p> <table border="1"> <tr> <td>日程</td><td>令和 3 年 2 月 5 日</td><td>参加者数</td><td>約 0 名</td></tr> <tr> <td>場所</td><td colspan="3">大阪市立中野小学校</td></tr> <tr> <td>備考</td><td colspan="3">参会せずに誌上発表</td></tr> </table>	日程	令和 3 年 2 月 5 日	参加者数	約 0 名	場所	大阪市立中野小学校			備考	参会せずに誌上発表		
日程	令和 3 年 2 月 5 日	参加者数	約 0 名											
場所	大阪市立中野小学校													
備考	参会せずに誌上発表													